

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・中間報告・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		中間報告		学校関係者評価 11月24日実施)	総合評価 (3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 工業の専門性の向上を図り、実際の・体験的学習に重点を置くとともに、産業界の求める人材を育成するため、知識・技術の習得のみならず、主体的に学ぶ意欲の向上を図り、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が主体的に学習に取り組めるよう、学習の内容や授業の展開を工夫する。 ②基礎学力の定着に加えて、専門的、実践的な問題解決能力の育成を目指す。 ③情報端末を積極的に活用して、地域社会と連携し、デジタル社会の実現に向けた人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①TTによる全体への指導と個別指導を組合せ、きめ細かい授業を展開し、わかったことを自ら学ぶ姿勢へとつなげられるようにする。 ②生徒自らが課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が図れるような授業計画の策定や研修を行う。 ③できるだけ多くの機会情報端末の活用を進められるよう、組織的に積極的な活用の取組を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒自身が主体的に学習に取り組む姿勢が見られたか。授業への積極的に参加する姿勢が見られたか。 ②学習環境の整備を進めるとともに、生徒自らが課題に取り組むことのできる教育課程であるか、研修・研究授業等の実践ができたか。 ③授業実践のための技術や情報を共有することができたか。研究授業等において組織的に授業改善を進めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①TTによる指導によって、授業の内容を理解しようとする姿勢が見られるようになった。 ②課題解決のための思考力や判断力については、少しずつ育成されてきている。 ③ICTの授業への活用だけでなく、AIなどの活用についても、組織的な取組が進みつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業への取組方組みは概ね良好であるが、まだ積極的に関わるまでに至っていないので、授業改善と併せて、生徒のさらなる授業への取り組みの改善へつなげていく。 ②表現力の育成という点で、まだまだ苦手な生徒が多いので、個に応じた活動の場を設定して、育んでいく。 ③さまざまな情報端末の活用事例の情報共有を進めているが、それを授業にどのように結び付けていくかが、今後の課題であると考えられる。 	<p>生徒さんたちが生き生きと活動されている様子、展示等からは学年が上がるごとに成長・向上されている様子に触れることができました。御校の積極的な取組に敬意を表しますとともに今後さらなる発展を期待しております。</p> <p>新規(理数科目2科目の新設など)および従来の取り組みを精力的に行っていることが見て取れます。</p> <p>企業の連携等による魅力的な取組等を拝見し、活気あふれる御校の様子に触れることができました。御校の積極的な取組に敬意を表しますとともに今後さらなる発展を期待しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①TTによる授業を展開することで、基礎学力が十分でない生徒や、集中が続かない生徒への対応が、個に応じて効果的に行えるようになった。 ②工業の課題研究など、発表の機会を設け、授業の振り返りや発表資料の作成などを通して、課題解決のための思考力や判断力、表現力などを育成することができた。 ③教員がICT機器を用いた授業を展開し、生徒の理解を促す工夫を行うことができた。また、AIの活用についても、教員どうしによる情報の共有などが進み、授業への活用が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①TTによりきめ細かい対応を行っていても、授業の内容がわからないことで、取り組むことをやめてしまう生徒が少なからずいる。特に、積み重ねが必要な教科科目ほど、その傾向がみられる。また、令和8年度からは、外国につながるのある生徒の入学も予定され、内容そのものをどのように伝えていくかが課題となる。 ②課題研究だけでなく、さまざまな授業、学校生活の場面で、課題解決能力や、思考力、表現力の育成が望まれるので、学校全体の取組として進めていきたい。 ③教員側のICT活用だけでなく、生徒側の1人1台端末についても、さらなる積極的な活用を進めて行く。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性の育成を図るために、学校生活の基礎を作るための生徒支援・教育相談の充実とともに、個に応じた生徒支援と相談体制の一層の充実により生徒理解に努め、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。 生徒が中心となって、活動する学校行事を通して、社会に主体的に関わりようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の問題の未然防止、早期発見、早期対応に努め、生徒が安心して学びつづけることができよう、個に応じた支援をすすめる。 ②生徒が中心となって学校行事を企画・運営するための仕組みづくりを、生徒とともにすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①かながわ子どもサポートドック実施及び、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等による教育相談実施により得た情報を関係者で共有し、生徒個々の支援、問題の未然防止、早期発見・対応につなげる ②生徒が学校行の企画・運営へ積極的に参加するよう働きかけるとともに、実施を通じて得た知見を言語化し、次の行事企画・運営の仕組みに生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談や関係機関等との連携で得た情報を共有することで問題の未然防止、早期発見・対応につなげる ②生徒が中心となって行事を企画・運営するとともに、行事の企画運営の仕組みづくりに生かせるような知見を得ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①組織的な生徒指導・支援に速やかにつなげられるよう、情報共有の方法を改善し、生徒個々の支援に取組んだ。 ②文化祭・前夜祭では企画段階から委員会、HRと連携して準備を進めることができ、体育祭では委員会を軸に生徒が主体となって企画運営することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報のキャッチから組織的対応へつなげるための体制をより充実させるとともに、未然防止の観点での取組みを検討、発展させる必要がある。 ②引き続き生徒が主体となる行事にするための仕組みづくりを行う。 	<p>個に応じた支援及び問題の未然防止・早期発見に向けて、SCや専門機関と連携した教育相談体制の充実に向かい、適切な取り組みをされると拝察しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の日々の様子をすべての教員で見守るとともに、担任、学年団、教育相談コーディネーター、生活支援担当部署、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が定期的に情報共有し、連携して支援をすすめることができた。 また、産婦人科医師や助産師を講師として招いた「ライフスキル講座」を全学年生徒対象に開催し、多くの生徒にとって、健康や生命に関わる深刻な問題を未然に防ぐ方策を学び、意識を向上させる機会になる等、未然防止の取組みを発展させることができた。 ②学校行事では生徒が主体となり企画、運営をすすめた結果、生徒発案の体育祭新種目や文化祭新企画が多く実現した。また、行事だけでなく定期的に行う地域清掃、全日制生徒との対話・協働等も生徒が中心となって運営をすすめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が安心して学べる学校づくりに資する取組を引き続きすすめるとともに、生徒の多様な背景に目を向けた上で生徒個々に寄り添った支援を展開するために、より望ましい体制づくりについて、さらに検討を重ねて実行していく必要がある。 健康や生命に関わる問題を未然に防止するための取組みの充実について引き続き検討を重ねていく。 ②生徒主体の企画、運営のあり方が生徒の入れ替わりによってリセットされることがないよう、ノウハウを定着、継承させるための効果的な仕組みづくりについて生徒と教員とで対話、検討していく必要がある。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		中間報告		学校関係者評価 11月24日実施)	総合評価(3月16日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生き方に対応した情報収集や情報提供を行い、働くことを理解できるよう入学から卒業までの体系化したキャリア教育を確実に実践し、社会を構成する一員としての自覚を育む進路指導・支援に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育実践プログラムを基に、進路ガイダンスやLHRを活用した体系的な計画を立て、生徒一人ひとりの進路を実現する。 ②生徒の就職に対する考え方、職種や業種研究、社会人としてのマナーを学ぶ機会を設け人材育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度に引き続きキャリア教育実践プログラムを共有するために様々な場面で発信していく。 ①昨年に引き続き、年間を通して合同企業説明会への参加、進路ガイダンスを実施し、自らの進路に対する関心を高める。 ②インターンシップを実施し生徒のキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育実践プログラムの情報発信ができたか。 ①合同企業説明会の参加と、進路ガイダンスを通じて自分の進路について、具体的なイメージを持つことができたか。 ②インターンシップを実施することで、生徒の就職に対する意識や心構えを改善できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校HP掲載や校内掲示板への貼り出しで内外への発信が多言語でも行えた。 ①6月に合同企業説明会に学校全体で参加し、生徒の進路への考え方、LHRの位置づけを確立することができた。 ②インターンシップを実施し、体験した生徒は自身のキャリア育成を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報発信はできているが、来年多国籍の生徒が入学してくることが予想されるため。有効な方法を模索する。 ①6月の合同企業説明会参加は、2回目の参加であったが、参加企業が少なかったため来年度はコンソーシアムを活用した説明会を実施する。 ②毎年インターンシップを実施するにあたり、来年度はコンソーシアムを活用した学校や企業との連絡体制の見直しを行う。 	<p>生徒に対し、将来の仕事や就職を見据えたプログラムを積極的に提供されている点が素晴らしいと思います。</p> <p>とても生徒に寄り添い進路指導に向けて取り組んでいると思われます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育実践プログラムをより内外に浸透させるために、新入生オリエンテーションや学校説明会で情報を発信した。 ①進路ガイダンスは卒業生講話を実施した。卒業後の生活や社会人と学生との違いなどの話を聞き、生徒が将来設計を考える機会を作ることができた。 また、合同企業説明会などを通して、生徒が折に触れて進路を意識するよう促した。LHRの体系化に向けた土台作りができたと考えられる。 ②インターンシップを実施し、参加した生徒は就職活動に向けての意欲を高めることができた。参加生徒を増やすこと、生徒の動機づけが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後もキャリア教育実践プログラムの情報をさまざまな場面で発信していく。 ①進路ガイダンスは、今年度より綾瀬市とコンソーシアムを締結したため、次年度6月に学校でインターンシップを実施してくれる企業に来校してもらい、より他の進路のイベントとの関係性を深めた運営を実施する。 ②インターンシップを実施するにあたり、次年度からは、綾瀬市とのコンソーシアムを活用し、生徒が参加しやすい環境を整えたあたらしい形態に変更する。また、1年次より職業体験に触れることで、数多くの職業の中から、将来の選択肢の幅を広げる機会を作る。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域・企業との連携・協働を通して教育活動を活性化させ、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域に根ざした学校づくりを目標に、貢献活動や地域との連携・協働をしていく。 ②学校PRのため、定時制HPの更新に努め中学生やその保護者への学校情報の発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域行事への参加等貢献する意識を啓発する。企業との積極的なかわりを持つ。 ②本校HPを活用して学校のPRや情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全校生徒が、地域貢献活動に参加できたか。 ②HP更新回数が増えたか。学校説明会において本校の教育内容が理解されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域清掃活動を10月25日に実施した。 ②4月よりHPの更新を増やし最新の情報を多言語でも掲載している。学校見学会を3回に増やし、通訳派遣など学校説明の国際的な理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全校一斉にはできないため、学年ごとに2学期に計画し実施する。 ①学校説明会の申し込み数は外国籍の生徒がかなり多くなった。通訳など国際的な説明会に向けた取組方法を検討する。 	<p>貴校とのコンソーシアムの取り組みは、専門学校や企業側にとっても、大変前向きな刺激となっております。我々の地元・神奈川県への更なる活性化に向け、今後も密に連携し、本活動を力強く推進して行きたく、引き続き宜しくお願い致します。各専攻でコンソーシアムを締結し、生徒たちの社会を知り自らのキャリアを意識させる取り組みはとても評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①地域清掃を美化委員会で1回、学年別に1回で計5回2学期に実施した。今後も地域に根ざした学校づくりを行う。 ②頻繁にホームページの更新を行い、学校の広報をアピールした。また、デジタルサイネージを用いて、来年度に向けて多言語での情報発信も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①2学期の地域清掃活動は継続して行っていく。 ②普通科が設置されることで、外国につながる生徒が多く入学してくることが予定されるため、多言語での対応が必須となり、学校見学会・説明会をはじめ、ホームページやデジタルサイネージで多文化にも対応した広報活動や地域連携も考察していく必要がある。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止の徹底に取り組むとともに、防災意識を高め学校防災力の向上を図る。 組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①信頼される学校づくりを目指し不祥事防止の取り組み。 ②災害時の防災安全意識と対応力を身に付ける。 ③職場環境や業務内容を見直し、働き方改革に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月不祥事防止研修会を職員会議前に行う。 ①適正な私費会計処理に努め、事故防止の意識をもって業務を行う。 ②防災訓練、役割担当を災害時の対応能力を身に付ける ③Teamsの活用と見える化をさらにすすめ、会議時間の削減やペーパーレス化を目指すとともに業務の効率化につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月不祥事防止研修会が実施できたか。 ①私費会計が適正に処理されているか。 ②避難訓練を計画的に実施し身を守る安全意識が向上したか。 ③Teamsの活用等により、会議時間が削減できたか。また、業務の効率化が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員で毎月不祥事防止研修会を実施している。 ②7月に1年生対象にDIG訓練を行った。職員向け防災研修を11月に計画中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①11月に私費会計に関する不祥事防止研修会を行う予定である。 ②1月に全校で避難訓練を実施予定である。 ③職員が共有する情報機器、付属品の管理体制をしっかりと行う仕組みを改善する。 	<p>伝票処理にかかる業務作業負担を標準化して改善との記載があり、このような取り組みも継続して行っていければよいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①県立学校財務事務調査において、定時制学校徴収金・団体徴収金の財務処理調査において指摘された事項について改善をした。 ①毎月不祥事防止会議、不祥事防止研修会を開催し、不祥事の未然防止に努めた。 ②2回の防災訓練を実施した。 ③ICTの本格的活用が5年を終えて、職員も業務の効率化が上がってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き不祥事防止に努める。 ②生徒の防災意識を高めていく。 ③今後もICT活用をすすめ、業務効率化に努めることで、働き方改革を推進し、生徒に向き合う時間を確保する。

